

(19) 日本国特許庁 (J P)

(12) 公開特許公報 (A)

(11)特許出願公開登号

特關平8-282757

(43) 公開日 平成8年(1996)10月29日

(51) Int.Cl.
B 65 D 85/34
21/024

鐵別記号 序内整種番号
0333-3E

P I
B 6 5 D 85/34
21/02

技術表示箇所

審査請求 有 試験項の数3 書面 (全 5 頁)

(21) 山廟番号

特庸平 - 125516

(22) 出席日

平成7年(1995)4月14日

(71)出席人 595074015

秦因 莱即

宮崎県宮崎市大坪原1丁目4番地6

(72)発明者 森田 英則

宮崎県宮崎市大坪東1丁目4番地6

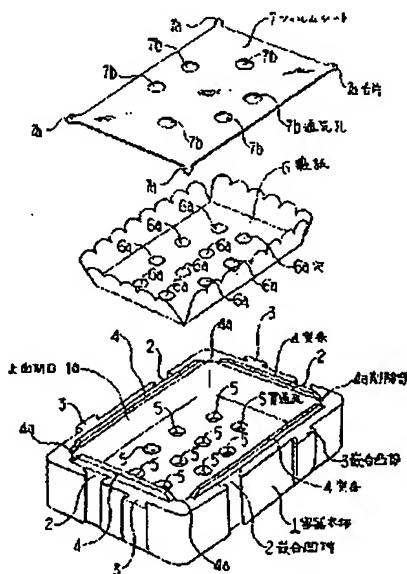
(74) 代理人 施理士 雷謹 彰

(54) 【発明の名称】 茎の包叢容器

(57) [要約]

【目的】苺を搬送したり保管する際の保形力及び保護力を高めて苺の傷みを防止すると共に、鮮度を維持するにも適しており、また、店頭に陳列した際にも見栄え良く苺の商品価値を高めることができる包装容器を提供する。

【構成】容器本体1を全体が発砲スチロール製で、上面が閉口された箱状に形成する。容器本体1の各側面には、嵌合凹所2を形成すると共に、前記側面と同一面に並設して嵌合凹所2に嵌合可能な嵌合凸部3を形成し、別の容器本体1の嵌合凹所2及び嵌合凸部3と嵌合させることにより容器本体1(小箱)どうしを連結して一体の連結容器10(大箱)にする。



(2)

特開平8-282757

1

【特許請求の範囲】

【請求項1】合成樹脂の発砲体からなり上面が開口され底部に貫通孔が設けられた箱状の容器において、容器側面の短手方向(縦方向)に沿って凹所が形成されると共に、前記側面と同一面に前記凹所に嵌合可能な凸部が形成されていることを特徴とする苺の包装容器。

【請求項2】凹所及び凸部の形状が倍断面略台形状であることを特徴とする請求項1記載の苺の包装容器。

【請求項3】凸部の少なくとも一方の端部には、末端に向かって漸次狭くなる斜面が設けられていることを特徴とする請求項1又は請求項2記載の苺の包装容器。

【請求項4】容器裏底面に段状凹所が設けられると共に、容器上縁部に前記段状凹所に嵌合可能な突条が立設されていることを特徴とする請求項1乃至請求項3記載の苺の包装容器。

【請求項5】突条が容器の角部を除いて設けられていることを特徴とする請求項4記載の苺の包装容器。

【請求項6】上面開口がフィルムシート(ポリエチレンフィルム)にて被覆されていることを特徴とする請求項1乃至請求項5記載の苺の包装容器。

【請求項7】全体が包装容器の上面開口の内法と同寸法の矩形状に形成されると共に、各角部から対角線上に延出して舌片が設けられていることを特徴とするフィルムシート。

【請求項8】2個以上の容器本体(小箱)を連結して一体と為して連結箱(大箱)を形成し、ダンボール紙でトレー状に作られた上蓋と底蓋とを、前記連結箱に冠着したことと特徴とする苺の包装容器。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【産業上の利用分野】本発明は、果物を収納する包装容器、特に苺を収納して運搬あるいは店頭に陳列するためを使用される包装容器に関するものである。

【0002】

【従来の技術】果物、特に苺やさくらんぼ等の果実はわずかな衝撃にも弱く傷み易いものである。ところが、苺の生産においては、未だ軟弱な塩化ビニール製の透明容器が多く使用されているのが実情であり、また、その出荷に際しては、数個の包装容器を更に別製の紙箱に詰めて組包して搬送することが一般的に行われている。

【0003】

【発明が解決しようとする課題】しかしながら、前述したように、苺は傷み易いものであるから、上記のような変形し易い包装容器では、苺を収納した後の取り扱いが慎重にならざるを得ず、組包や店頭への陳列の際の作業性が悪いという欠点があった。また、搬送中においても外部からの振動や衝撃により、容器が運動して変形するおそれが大きい。このため、例えば、実開昭57-29583号公報、実開昭58-167067号公報所載のように、収納した果実への外部からの衝撃を緩衝し且つ

59 (2)

2

鮮度を保持しつつ運搬あるいは店頭に陳列するための包装容器が恒々提案されている。本発明もまた上記実例に鑑み、苺を搬送したり保管する際の保形力及び保護力を高めて苺の傷みを防止すると共に、鮮度を維持するにも好適であり、また、店頭に陳列した際にも見栄え良く苺の商品価値を高めることができる包装容器を提供することを目的とするものである。

【0004】

【課題を解決するための手段】このため本発明では、合成樹脂の発砲体からなり上面が開口され底部に貫通孔を設けた箱状の容器において、容器側面の短手方向(縦方向)に沿って凹所を形成すると共に、前記側面と同一面に前記凹所に嵌合可能な凸部を形成したことを第1の特徴とする。

【0005】

【実施例】以下、本発明の実施例を図面に基づいて説明する。図1は本発明に係る包装容器の斜視図、図2は平面図、図3は図2のA-A倍断面図、図4は本実施例の使用状態を示す斜視図である。

【0006】図1、図2及び図3に示すように、容器本体1は全体が発砲スチロール製で、上面が開口された箱状に形成されている。この容器本体1の各側面には、その短手方向(縦方向)の一端から他端に渡って嵌合凹所2が形成されると共に、前記側面と同一面に並設して嵌合凹所2に嵌合可能な嵌合凸部3が形成されており、別の容器本体1の嵌合凹所2及び嵌合凸部3と嵌合させることにより容器本体1(小箱)どうしを連結して一体の連結容器(大箱)にすることができるようになってい る。

【0007】この嵌合凹所2及び嵌合凸部3の形状は、その横断面が略台形状に形成されており、容器本体1どうしを嵌合凹所2及び嵌合凸部3にて嵌合させ連結した際に、強い嵌合力が得られる。また、嵌合凸部3の少なくとも一方の端部(本実施例では下端部)には、末端に向かって漸次狭くなる弧状の傾斜面3aが設けられており、円滑に嵌合できるようにされている。

【0008】容器裏底面は、後述する突条4が嵌合可能に周囲の縁を残して段状凹所1bが設けられると共に、全体が塞んだ形状にされている。容器本体上縁面には、40 容器裏底面の段状凹所1bに嵌合可能な突条4が立設されている。この突条4は容器の角部を除いて(削除部4a)容器本体上面縁部全周に渡って設けられており、容器本体1どうしを上下に積み上げた際に安定した積層状態を得ることができる。

【0009】容器底部には通気及び通水のための多数の貫通孔5が穿設されている。また、容器底部には、収納した果実の軋がり防止及び適度な湿気を保持するための敷紙6を敷設するようにされており、この敷紙6には貫通孔5に対応させて穴6aが穿ってある。

【0010】更に、容器本体1の上面開口1aはフィル

(3)

特開平8-282757

4

ムシート(ポリエチレンフィルム)7にて被覆するよう
にされている。このフィルムシート7は全体が上面開口
1aの内法と同じ寸法にされた矩形状で、各角部から対
角線上に突出して舌片7aが設けられている。そして、
フィルムシート7にて上面開口1aを被覆する際は、容器
本体1の上端部の突条4の除かれた角部(削除部4
a)にこの舌片7aを対応させて対角線方向に引っ張り
ながらテープ止めする。これによりフィルムシート7は
上面開口1aに水平且つ適度な張力を持って貼りつける
ことができ、内部に収納された苺を適度に押圧してその
振動を防止することができる。

【0011】フィルムシート7にも複数の通気孔7bが
形成されている。ここで、この通気孔7bはフィルムシ
ート7を張設した際に容器底部の貯通孔5の位置と水平
方向で重ならない位置(ズレた位置)になるように位置
決めして設けられている。これは果物を容器苺冷蔵する
ような場合、容器内部に平均的に冷気を対流させ良好な
保冷状態を維持できることを本出願人が経験的に知り得
た有効な手段である。

【0012】

【作用】次に、本実施例の使用方法及び作用について述
べる。苺を収納し、フィルムシート7にて上面開口1a
を被覆された容器本体1(以下、小箱1という)は、4
個を追縫して一体となし、荷扱いとしては1個の追縫箱
10(大箱)として取扱う。すなわち、搬送する際に
は、打抜加工で得られた1枚のダンボール紙を折曲して
トレー状に折り上げて作られた上蓋8及び底蓋9とを、
この追縫箱Aの上下から挟持するように冠着させ、縫付
けバンド等の慣用手段により荷作りする。

【0013】この上下から追縫箱10を挟んで上蓋8及び
底蓋9を取扱う方法により、強固なバンドの絡め付
けが可能になり、しっかりと荷作りすることができる。ま
た、図4に示すように小箱1の側壁に形成された嵌合凹
所2の上下端部と上蓋及び底蓋との間に隙間が生じるた
め通気性が失われることもない。

* 【0014】店頭での販売は、上蓋8及び底蓋9を取去
して大箱10の嵌合を解き小箱1単位で陳列して行う。
小箱1は白い発泡スチロール製であるので、収納した苺
の赤い色が引き立てられて見栄えが良く苺の商品価値を
高めることができる。

【0015】

【発明の効果】本発明は以上のように構成したので、苺
を搬送したり保管する際の保形力及び保冷力を高めて苺
の傷みを防止すると共に、鮮度を維持するにも好適であ
り、また、店頭に陳列した際にも見栄え良く苺の商品価
値を高めることができるという優れた効果がある。

【図面の簡単な説明】

【図1】本発明に係る包装容器の斜視図である。

【図2】本発明に係る包装容器の平面図である。

【図3】図2のA-A線断面図である。

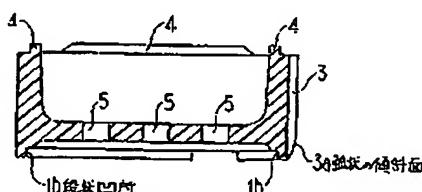
【図4】本実施例の使用状態を示す斜視図である。

【符号の説明】

1 容器本体(小箱)
1a 上面開口
1b 段状凹所
2 嵌合凹所
3 嵌合凸部
3a 段状の傾斜面
4 突条
4a 削除部
5 貯通孔
6 紗紙
6a 穴
7 フィルムシート
7a 舌片
7b 通気孔
8 上蓋
9 底蓋
10 連絡容器(大箱)

*

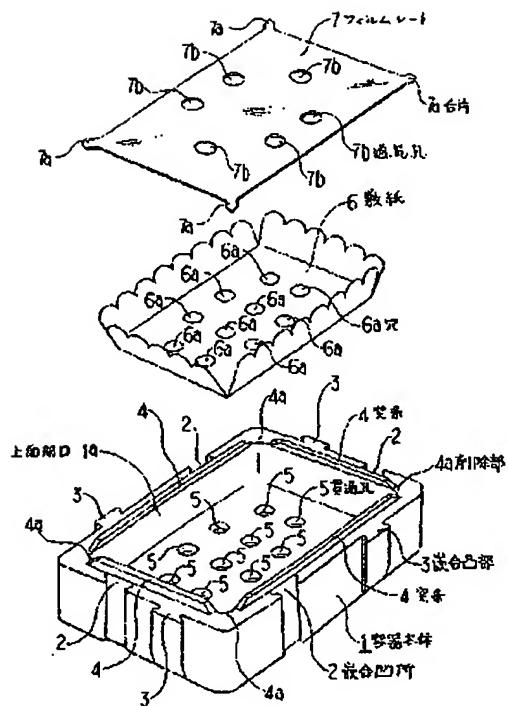
【図3】



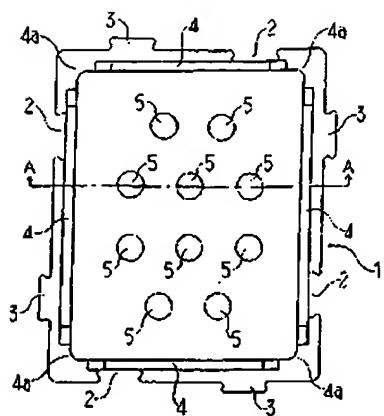
(4)

特閱平8-282757

[图 1]



[図2]



BEST AVAILABLE COPY

【図4】

